

高度診断機器の更新について

マルチスライスCT (128列)

放射線科

当院では、これまで使用してきた16列マルチスライスCTを更新し、新たに128列マルチスライスCTを導入し、本年3月24日から稼働しています。これにより128列のマルチスライスCTの2台体制になり、装置間の性能差がなくなりました。どちらのCT装置で撮影しても全身の各臓器の情報をより短時間で高精細に撮影することが可能になりました。今まで待ち時間が長くなることがありましたが、より迅速な対応が可能となりました。



高画質 & 広範囲撮影

このCTは、高速に回転しながら4cm幅の範囲を128列相当に細分し、連続して撮影することができ、1回転に要する時間は最短0.3秒です。動きのある心臓の冠動脈を描出することや、撮影困難であった高心拍への対応等メリットが大きくなります。また、腹部領域だけであれば3秒、頭部から足までの全身領域でも10秒程度で撮影することができます。つまり、息止めが困難な方や小児、救急での広範囲の撮影などで動きの少ない鮮明な画像が得られることとなります。



全身の撮影



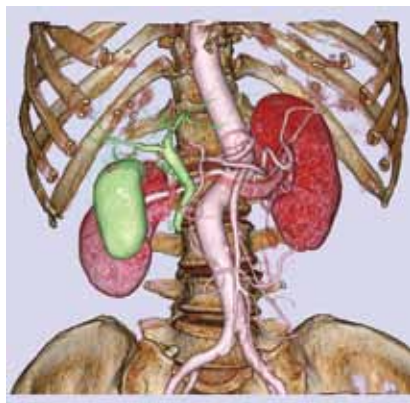
心臓と冠状動脈の3次元画像

低被ばく

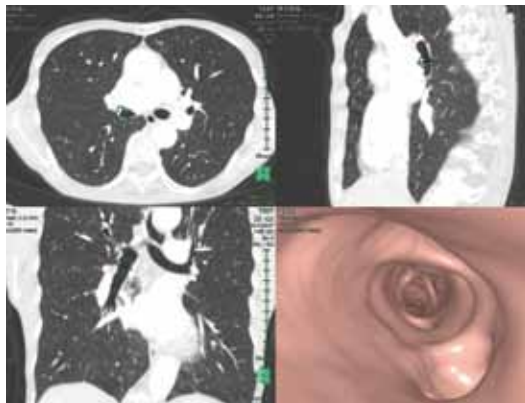
小さなお子さんや妊婦の方は放射線の被ばくを気にされると思います。不必要な部位に放射線が当たらないような機能や、被ばくを2～3割低減できるような画像処理技術も搭載されています。

目的に応じた多様な画像表示

画像表示は目的に応じて多様な方法があります。骨と血管のみの描出や、内視鏡で体内を診るように消化管や気管(仮想内視鏡)を観察することが可能です。交通外傷などでは内臓の状態(肺・肝臓・腎臓・血管など)や、骨折の状態(脊椎や四肢)を一度の撮影で把握することも可能になります。



骨・血管・胆のう・腎臓の3次元画像



気管仮想内視鏡



大腿骨